

平成29年度 第2回 さいたま市大宮盆栽美術館運営委員会
会議録

日時 平成30年3月23日(金)
午後2時から
場所 大宮盆栽美術館2階 講座室

【次第】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 報 告
 - (1) 平成29年度大宮盆栽美術館事業について
 - (2) 盆栽アカデミーの進捗状況について
 - (3) 新資料の購入について
 - (4) 平成29年度入館者数等について
- 4 議 題
 - (1) 平成30年度大宮盆栽美術館事業について
 - (2) 盆栽の今後の取組について
 - (3) その他
- 5 その他
- 6 閉 会

○配布資料

- 書類番号1 平成29年度大宮盆栽美術館事業について
書類番号2 盆栽アカデミーについて
書類番号3 新資料の購入について
書類番号4 平成29年度入館者数等について
書類番号5 平成30年度大宮盆栽美術館事業について
書類番号6 盆栽の今後の取組について

【会議内容】

- 1 開 会

2 あいさつ

スポーツ文化局文化部長よりあいさつ

5 報 告

議長：委員長

公開とすることとする。なお、傍聴人は無し。

(1) 平成29年度大宮盆栽美術館事業について

資料を基に事務局より報告

【質疑】

委員： 総合学習の時間における盆栽授業はどこで開催されているか

事務局： 今年度は城南小学校が対象となり、同小学校にて開催した

委員： 世界盆栽大会は、日本各地の名品がさいたまスーパーアリーナに一堂に会した非常に素晴らしい展示会であり、海外であれほどの展示は不可能だと思われる。美術館もさいたまという吸引力を活かし、地方の盆栽の展示などを通して地方と連携するべきだと思われる。現在、所蔵品以外の盆栽はどの程度展示しているのか。

事務局： ローテーションを組んで展示をしており、地方の盆栽の展示は運搬面などを含め検討していく必要がある。なお、今年度は大宮盆栽村からの借用を中心に、年間で200点程度の盆栽及び水石を借用した。

委員： 地方に目を向けることは非常に大事なことである。大宮盆栽は日本の盆栽を代表するものであり、全国や世界に目を向けることも重要だろう。

委員： 世界盆栽大会では、山田香織さんが写真とのコラボレーションで展示をしていた。他の文化とのコラボレーションをオリンピック開催年である2020年までに検討してもよいのではないか。

事務局： 異業種とのコラボレーションは創作意欲をかき立てるものであり、非常に重要なことである。マレーシアでは錦鯉との例がある。今後、美術館で創作展をやるのも有意義であると考えられる。

(2) さいたま国際盆栽アカデミーについて

資料を基に事務局より報告

【質疑】

委員： 多くの需要が見込まれることが想定されるが、なぜ定員を減らしたのか

事務局： 20名では講座室が狭く、また人数を減らすことにより講師の目を手厚くし、質の向上を図った

委員： 国外のプロモーションはどこを予定しているか

事務局： 10月開催のフランス、もしくは2月開催のベルギーを想定している

委員： 今年度実施してみてもの発見は何かあったか

事務局： 定員が想定以上に多く、また、遠方からの応募もあったのが驚きだった。

委員： 定員を減らすことでかなり収入減となる。非常に多くの事業を実施しているが、今年度は運営に無理があったということか。また初級修了者の受け皿がない。これらの懸念事項について検討していく必要がある。

事務局： 中級コースは14回開講しており、非常に負担が大きい。また、中級コースへの受講希望が多いため、初級に比べ中級の比率を大きくした。

委員： 受講生が制作した盆栽のアフターフォローはどうしているか。

事務局： 盆栽相談デーを案内している。

委員： 当初は後継者育成に向けた動きであったと認識しているが、上級や外国人コースが後継者育成に繋がるものであり、初級・中級コースは裾野の広がりをもつものになると考えられる。ボランティアとして活躍してもらうのは非常に良いことだと思う。なお、選考方法はどのようにしているのか。

事務局： 選考方法は一律に抽選をしている。

委員： 定員を超える申し込みがあり、受入れの拡大など、長期的ビジョンをもって運営していくべきである。

事務局： 事務局としても長期的ビジョンは必要なことと認識しており、検討していく。

(3)資料の購入について

資料を基に事務局より報告

(4)平成29年度入館者数等について

資料を基に事務局より報告

【質疑】

委員： 世界盆栽大会や大盆栽まつりなどのイベントが終了した6月以降の来館者はどのように推移しているか。

事務局： 上半期は世界盆栽大会の盛り上がりがあり、前年度を上回る来館者となったが、下半期は、前年度並みになっている。

委員： 日本人来館者が多くなっているか。

事務局： 来館者の割合からすると日本人が圧倒的に多い。

委員： 館の規模を考えると来館者数はかなり健闘している。普及活動などが実を結んでいると考えられるが、今後、作ることへの興味から鑑賞する人を養うという観点も非常に重要である。これまでの展覧会に対する外部評価と自己評価はどのようなものか。

事務局： 外部評価としては、他の論文等にどの程度引用されているかという点が指標の一つになると考える。「盆山展」は千葉市立美術館の特別展「唐画もん」にて引用された実績がある。

また、「盆山展」及び「鉢木展」では、能楽研究の専門家から当館のことを聞くようになった。

「明治の盆栽事情」ではサザエさんの波平さんに焦点を当て、長谷川町子美術館より、今後の新たな展開に繋がるとのご意見をいただいた。

歌舞伎役者に焦点を置いた今年度の秋季特別展では、美術史や歌舞伎史の専門家の来館が目立ち、これまでにない歌舞伎役者の取り上げ方をしているとの声が多く聞かれた。

今年度の春季特別展においては、グループ展が大半を占める盆栽界において、作者が明るみになり、盆栽づくりの意図など、作者の人間性を紹介することがで

き、盆栽界に新たな動きを示せたと感じている。また、シリーズ展は今回が初めてであった。

6 議 題

(1) 平成30年度大宮盆栽美術館事業について

資料を基に、事務局より説明。全会一致にて承認。

【質疑】

■春季特別展

委 員： 展示内容の説明を聞いているだけでも楽しみな展示である。

■企画展「さいたま市の文化」

委 員： 面白い試みである。さいたま市に所縁のある文化がどのように繋がっているかを分析することで、さいたま市の文化とはどのような特徴があるのか、1本の軸を通すことに繋がる。

事務局： 今後、さいたま市では国際芸術祭やオリンピック・パラリンピックが開催予定となっており、本展がこれらのビッグイベントへの狼煙としたいと考えている。

委 員： 中途半端なことにならないか懸念され、また、盆栽美術館でさいたま市の文化を総合的に紹介するイメージが湧かないが、狼煙と聞いて少し合点がいった。

盆栽美術館の集客力を生かし、盆栽美術館が入り口となり、各文化の振興に繋がることを期待している。

■その他

委 員： 美術コレクション名品選とはどのような展示なのか。

事務局： 盆栽以外の収蔵資料（盆器やその他の収蔵品）を含めた展示内容となる。

委 員： 他の美術館の企画展と比べ会期が短い。

事務局： 屋内展示をもって企画展としている。盆栽の性質上、やむを得ない状況である。今年度の春季特別展は1か月という盆栽の展示においては長期間となったが、作者に大きな苦勞を強いた部分があった。会期が短い分、事前の周知が十分にかないところがあるが、所蔵盆栽の管理は順調に推移しており、収蔵品展を長くすることで、企画展・特別展に注力し、広報にも力を注いでいきたいと考えている。

委 員： 団体ガイドは15名以上としているが、解説は来館者にとって非常に魅力的なものである。15名以上に限らず、常設もしくは定期的な対応も検討するとよい。

事務局： ゴールデンウィークでは多くの集客を見込めるため、そのように対応している。通常開館時においても検討して参りたい。

(2) 盆栽の今後の取組について

■来館者数の目標値について

委 員： 来館者数目標について既に達しているのだから、もっと増やしてもよいのではないか

事務局： 世界盆栽大会を除いた目標値としているため、このような数字となっている。

委 員： 来館者数を目標に掲げるのではなく、質の向上を目標に掲げるべきであった。

数字を明記して目標化してしまうと、文化施設の方向性が変わってしまう恐れがある。

事務局： 美術館として、鑑賞環境の保持という観点から、適切な来館者数を引き続き目標としていく。

■大宮盆栽村のまちづくりについて

委員： 現在はどうのような議論がされているか。大宮公園駅の前が開発される動きがあるが、市として意見を述べることはできないのか。

事務局： 現在は、市有地の活用方法について議論している。民地の話になると、市として意見を言えるか不透明な部分があるが、大宮公園駅は大宮盆栽村の入り口であり、良好な景観を維持することは望ましいことである。検討事項の一つに入れたいと思う。

委員： 大宮駅構内に駅と盆栽村との繋がりがわかるようなものがあるといいと常々感じている。案内所の活用などは一つの案であると思う。

委員： 土呂駅では、外国人観光客が多いため、駅員の発案で外国語ポスターなどを掲示するなどの動きをしている。

事務局： 盆栽美術館の開館に向けた計画ができた当初は、土呂駅か大宮公園駅を盆栽駅にするという計画があった。また、美術館の住所を盆栽町にするという話もあった。

委員： 駅名については、サブネームはつけられるのではないか。

事務局： 駅名については、まちづくりのアイデアの一つになればいいと考えている。その他、市有地の活用についてはスピード感が必要である。

■世界盆栽大会に類似したビックイベントについて

委員： 世界盆栽大会が大変な盛り上がりを見せた結果を考えれば、同じような仕掛けを今後も継続するべきではないか。

盆栽文化はさいたま市にしかないという強みがある。また、さいたま市の強みは盆栽が一番であると考えている。大宮盆栽村に入ると別世界に来たような街歩きとしても魅力的である。

また、東日本連携の推進の動きの中で、より盆栽村に引っ張るような動きが必要である。

事務局： 盆栽サミットのようなものを計画したいと考えている。世界最高の盆栽とはどういうものなのかを、より提示していく必要がある。

■その他

委員： 企画展「さいたま市の文化」のように、市が所有するそれぞれの文化を繋ぐロジックを明確に、またなぜこれらの文化がさいたま市で育ったのか、それらのメカニズムを分析してほしい。

(3) その他

事務局より、今後の協力について依頼 → 承認